

## 名城大学 海外臨床薬学研修

研修期間：平成 28 年 7 月 24 日～8 月 8 日

所 属：名城大学薬学部薬学科

学 年：5 年

学籍番号：120973423

氏 名：榊原千寿子

### 1. 参加目的

私がこの研修に参加しようと思った理由の1つは個人的な旅行では行けないような薬局や病院の見学に行けることです。また、授業でアメリカの薬剤師は社会的な地位が高いと前々から聞いていたので、アメリカと日本の薬剤師の立場の違いを見たいと思ってこの研修に参加しようと思いました。

### 2. 研修内容

#### 【研修日程】

月日	研修内容
7月25日	オリエンテーション、Health Sciences Campus のキャンパスツアー、 講義(アメリカの臨床的な薬学教育)、HSC の学生による学校紹介
7月26日	講義(SOAP、患者カウンセリング)、Keck Medical Center の見学
7月27日	講義(患者カウンセリング)
7月28日	講義(服薬指導)
7月29日	Norris Cancer Center、El Monte Community Pharmacy の見学
8月2日	Plaza Pharmacy の見学、訪問大学生による各学校紹介、講義(うつ病)
8月3日	講義(うつ病)、SOAP 作成
8月4日	SOAP 発表、講義(不眠症)
8月5日	修了証明書の授与

#### 【研修内容の詳細】

プログラムには授業と施設見学がありました。

患者カウンセリングや服薬指導、うつ病に関する薬物治療についての授業を受け、SOAP を作成しました。授業の方針が日本とは違い、今回の授業では Wincor 先生が教室を回って生徒に意見を求めながら授業が進みました。うつ病の薬理学については薬の作用機序、特にどの生理活性物質に作用するかを学びました。そして各抗うつ薬について、作用機序だけでなく、第一選択薬かどうか、どのような副作用があるか、鎮静作用があるかないかなども教えてもらいました。

施設見学では、Keck Medical Center、Norris Cancer Center、El Monte Community Pharmacy、Plaza Pharmacy を見学しました。

Keck Medical Center は外科と移植に特化した病院で、たくさんのプロトコールがあると聞きました。プロトコールとは薬物治療をするために行う手順で、薬の例としてワルファリンがあります。この薬のマネジメントは薬剤師に責任が委ねられており、薬剤師は血中濃度などをモニタリングしなければなりません。薬の量が多い、又は必要のない抗血液凝固薬に気付いた場合、薬剤師の判断で薬剤師が抗血液凝固薬の量を減らすことができるそうです。また、新しい薬をフォーミュラリー（医療機関が使用でき

る医薬品の採用品目リスト)に追加したい場合も医師が薬剤師に依頼しなければならないと聞きました。

Norris Cancer Center は入院や外来患者の化学療法だけでなく、医療関係者に対する教育も行っている施設で、私たちは無菌調製しているところを見学しました。薬剤師は化学療法だけでなく、その副作用にも責任を持ち、チーム医療の一員として治療を行っていると教えてもらいました。

El Monte Community Pharmacy は地域とのつながりを大切にしている薬局でした。処方せんが患者による手渡しだけでなく FAX やメールで来たり、薬を自宅まで届けるデリバリーサービスを行ったりしていて驚きました。さらにテクニシャンが機械で薬を用意することがほとんどで、最後のチェック以外で薬剤師が薬を用意する際に関わることはほとんどないと聞きました。また医師の再診を受けることなく、処方せん 1 枚で繰り返し薬を受け取ることができる仕組みのリフィル処方箋がほとんどであり、糖尿病のような慢性疾患であれば薬剤師が患者の状態に合わせて服用量を調節するそうです。日本の国民皆保険制度とは異なり、アメリカで公的な保険に入るためには年齢や収入などに条件があり、ほとんどの人が民間の保険に入らざるを得ないが、どの保険会社も高額で全員が保険に入れるわけではないと教えてもらいました。したがって、保険に入っていないでも行ける薬局はアメリカ人にとって病院よりももっと身近な存在にあるそうです。

Plaza Pharmacy は外来患者の処方箋が中心の薬局で、移植した患者のためにタクロリムスのような免疫抑制剤も調剤すると聞きました。さらに El Monte Community Pharmacy のように、薬を用意する機械を見ることができました。次に軟膏を混ぜたり、散剤、液剤を調剤したりする部屋を見させてもらいました。最後に医師が含まれず薬剤師だけのファーマシークリニカルにつくることについて教えてもらいました。海外旅行に行く人のためにカウンセリングをしたり、ワクチンを打ったり、衛生情報を提供したりするそうです。

### 3. 感想

患者カウンセリングとして、患者の見た目やふるまい、雰囲気は日本と変わらないと思いました。しかし、麻薬や覚醒剤などを使用しているかどうか、麻薬や覚醒剤を使用している人は注射の跡をタトゥーで隠すことがあるからタトゥーの部分はよく見ないといけないと聞き、日本よりもアメリカは麻薬や覚醒剤を使用している人が多いことに驚きました。また、識字率や長い文章を話せるかどうかで IQ を推定したり、今の大統領などを答えてもらうことで一般常識があるかどうかをみたりすることも患者の幅の広さを感じると共に、今まで自分が気付かなかった視点に気づかせてもらいました。

施設見学ではプロトコルやフォーミュラリー、リフィル処方箋、ワクチンなどから職能の広さを実感しました。さらに Keck Medical Center ではプロトコルを作るように医師から頼まれることがあり、El Monte Community Pharmacy では薬剤師が服用量を調節するなど、医師からの信頼を得ており、医師と同等の責任も要求されているように感じました。また医療保険の面からも高額な医療費の中でより高度な医療が求められ、薬剤師の社会的な存在価値も必然的に高まっていると考えられます。これらの要求に応えるためにはコミュニケーションが大切であり、さらに薬だけでなく疾患に関する知識も必要であると思います。

これからの病院実習・薬局実習では薬だけのことではなく、患者さんの状態や環境にまで気を配り、病気に関する知識も身に付けていきたいと思いました。そして日々勉強することを続けていきたいです。